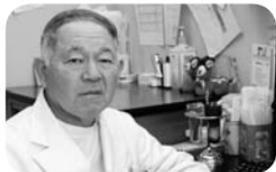


★ここが知りたい!★ 米沢市立病院紹介④ ☆小児科(小児アレルギー科)編☆



アトピー性皮膚炎の主な原因となる「食物アレルギー」のお子さんが増えています。その人数は、10年前と比べると約5倍、20年前と比べると約10倍にもなっています。これには、高たんぱく質な食べ物をとるようになった食生活も関係しているようです。副院長の岡田昌彦医師(写真:左)にお話を聞いてみましょう。

Q 食物アレルギーの症状について教えてください。

A 特定の食べ物をとると、アレルギー反応によって様々な症状が出る病気です。患者さんの8~9割は、アトピー性皮膚炎であったり、皮膚に何らかの症状が出てきます。そのほかに、発熱・咳込み・顔色が悪い(貧血症状)・吐いたり下痢をするという症状が出る場合もあります。また、アナフィラキシーといって呼吸困難などのショック症状になることもあるので、注意が必要です。

Q 主な検査と治療について教えてください。

A 血液検査でIgE(免疫グロブリンE)というものを調べます。また、卵・牛乳・小麦・大豆などの食べ物の中で、何がアレルギー反応の原因になっているのかを診断します。アトピー性皮膚炎の治療は、症状に合わせて塗り薬や飲み薬で行います。また、原因が卵なら食べないようにする、ミルクなら治療ミルクにする、大豆・小麦なら代わりの食品にする、といった食事療法を行う場合もあります。約半年毎に検査を行い、お子さんができるだけ早く食べられるようにしていきたいと考えています。

◆問合せ/市立病院総務課経営企画室 ☎22-2450 ◆ホームページ/ <http://yonezawa-city-hospital.jp/>

※「ここが知りたい!米沢市立病院紹介」は、毎月1日号に掲載します(10回連載)。